

世界各国で18の賞を受賞し、15の言語に翻訳

ISBN 978-4-00-061639-3

戦争は、

定価 2,200 円

(本体 2,000 円 + 税)

ジョゼ・ジョルジェ・レトリア作／アンドレ・レトリア絵／木下真穂訳

19×23.5 cm・上製・62 ページ
NDC 969 / 中学生から

ポローニャ国際絵本原画展入選、ブラティスラヴァ世界絵本原画展イラストレーション賞、ホワイ・レイヴン・リスト選出、NY ライツ・フェア・トーキング・ピクチャー・アワーズ(児童絵本部門)、ナミ島国際絵本コンクール最優秀賞(韓国)、コミュニケーション・アーツ誌最優秀賞、ポルトガル・イラストレーション賞、ホーンブック賞(絵本)、ポーランド児童書博物館賞など、世界各国で18の賞を受賞。



気づいた時には手おくれの病氣のように、日常をずたずたにし、野心や憎しみを糧に貪欲に育つ、戦争の恐ろしさ。今こそ読んでほしい絵本。

「戦争」とは何でしょう。何から生まれ、どう大きくなり、私たちに何をするのでしょうか。この絵本は、短い文章とシンプルな絵で「戦争」という化けものの正体を暴いていきます。ですが、この絵本に物語はありません。「戦争は、物語を語れたことがない」からです。この絵本を手にとって「こわい」と感じる人もいるかもしれませんが、それは、作者の伝えたいことがまっすぐ届いている証拠です。今、世界で起きていることを考えながらこの絵本を読んでほしいと思います。

——木下真穂(翻訳家)

担当編集者より

まるで知らぬうちに進行してしまった病のように、それを欲する者のところに密かに忍び寄り、瞬く間にはびこってしまうもの、それが戦争。その正体を読む人に突きつけるこの絵本は、ポルトガルを代表する文学者の父と、その息子の合作です。

父のジョゼ・ジョルジェ・レトリアは、40年にもわたるヨーロッパ最長の独裁体制に抗してきたレジスタンス音楽家でもあり、詩人、ジャーナリストでもあります(2024年はポルトガルで独裁体制を終わらせたカーネーション革命から、50周年にあたります。ジョゼも革命の中心人物でした)。「戦争とはなにか」を考え続けてきた文学者の静かで力強い詩は、息子のアンドレによる印象的な絵と共に、戦争の残酷さや恐ろしさを暴いていきます。

淡々とした静かな印象なのにとっても衝撃的で、読後にも一言では表せない余韻やしこりが残ります。不信や憎悪が連鎖する世界をどうしていけばよいのか、大切なものとは何なのか、読む人が考えてしまうような絵本です。